

【第 5 期西東京市障害福祉計画・第 1 期西東京市障害児福祉計画】 パブリックコメント一覧と要約

	ご意見	意見の要約	意見分類と対応	計画書修正対応
1	<ul style="list-style-type: none"> 中高生がショートステイ（短期入所）できる施設の数少なく、利用したいと思ってもできない状況がある。中高生がショートステイのできる施設を増やしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 中高生がショートステイのできる施設を増やしてほしい。 	⑨各種サービスの充実の要望	
2	<ul style="list-style-type: none"> 親が亡くなった後の生活の場として、グループホームが不足している。住み慣れた地域に暮らし続けたいので、知的障害者のグループホームの誘致をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 住み慣れた地域に暮らし続けたいので、知的障害者のグループホームの誘致をしてほしい。 	④住まいの場の確保について	
3	<ul style="list-style-type: none"> 高校卒業後の余暇支援をしてほしい。余暇活動場所を作ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校卒業後の余暇支援として、余暇活動場所を作ってほしい。 	⑥日中活動先の充実について	
4	<ul style="list-style-type: none"> 西東京市にまだ就労継続支援 A 型事業所がなく、他市と比較して就労支援等の日中活動系サービス事業所が少ない。就労継続支援 A 型事業所を作ってほしい。また、泉小跡地の施設だけでなく、その後も日中活動系サービス事業所を増やしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 泉小跡地の施設だけでなく、就労支援系などの日中活動系サービス事業所を増やしてほしい。 	⑥日中活動先の充実について	
5	<ul style="list-style-type: none"> 「第 5 期西東京市障害福祉計画・第 1 期西東京市障害児福祉計画（素案）」を読ませていただきました。多岐にわたり、福祉を考えていただきありがとうございます。 日々、福祉を利用する当事者の親として見ると、とてももどかしい感じがします。利用するにしても、当事者が何を必要としているのか、よくわからない状態で、何をどう利用すればいいか系統だてて相談、利用をすることができないからです。 特に学童期になると、ぱったり福祉との連携が切れてしまった気がします。教育との連携を密にしていきたいです。相談支援事業で、統一を図ろうとなさっているようですが、現在は親が利用先や相談先を不安な思いをかかえながら探している状態です。 もっと、今回のパブリックコメントもそうですが、広報をわかりやすく、福祉も利用しやすくしていただけることを望みます。 	<ul style="list-style-type: none"> 障害福祉にかかわる広報全般を、わかりやすく、利用しやすくしていただけることを望む。障害福祉サービスを利用するにしても、当事者が何を必要としているのか、よくわからない状態で、何をどう利用すればいいか系統だてて相談、利用をすることができない状況にある。 	①周知・広報について	
6	<ul style="list-style-type: none"> 全て読みました。アンケートの回収率が 5 割を切ってしまったことは残念です。市民も関心を持っていることを示したくてコメントさせていただきます。 福祉サービスが、福祉を必要としている人にすら周知されていない事実を重く受け止めてほしいと思います。障害のある子どもは産まないという選択をする人がほとんどの世の中ですが、障害があっても地域でその人らしく生きていくことができるサービスがあることを知っていたら、命を粗末にするような結果を選ぶ人も減るのではないのでしょうか。療育を受けたり、手帳を取得することにもメリットがあることを理解できるのではないのでしょうか。困っている状況を悪化させてしまうことは、社会の損失だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 障害福祉サービスの周知に、より一層力を入れてほしい。 	①周知・広報について	
7	<ul style="list-style-type: none"> 障害児と健常児の交流を今後行っていくとのことですが、どのような方法を考えているのでしょうか。副籍制度が機能していないことや、障害者イベントに健常者がほとんど関心を持っていないことなどを踏まえ、効果的な方法を模索する必要があると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 障害児と健常児の交流について、具体的にどう考えているのか教えてほしい。 	②交流・インクルージョンについて	
8	<ul style="list-style-type: none"> 泉小跡地の利用方法として、各種のサービス機能が設けられることに期待しています。しかし、今後も継続的に必要なサービス提供を受けられるかについては、現在学齢期の保護者は不安を感じています。今後も、日中活動の場の確保について、事業所の誘致や、就労機会の確保についてお力添えをお願いしたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> 日中活動の場の確保に係り、事業所の誘致や、就労機会の確保に取り組んでほしい。 	⑥日中活動先の充実について	
9	<ul style="list-style-type: none"> P1（1）障害者福祉計画・障害児福祉計画の根拠策定する計画は、障害福祉計画・障害児福祉計画だから、者はいらないと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 「障害福祉計画・障害児福祉計画」とすべき 	（その他）誤表記等の指摘	※ご指摘の通り修正。

	ご意見	意見の要約	意見分類と対応	計画書修正対応
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ P25 (3) 日中活動の支援 『各種メニューの確保が必要です。』 各種メニューとは具体的にどのようなものを指すのでしょうか。この前に、『障害福祉サービスの拡充や』とあるので。また、P37 (4) 障害のある人の社会参加の推進 ～障害のある人の日中活動や就労に対する支援を充実します～ では、『アンケート調査・ヒアリング調査では、日中の過ごし方として、施設での訓練や創作活動、就労を希望する声が多く寄せられており、』とあるものの、【今後の方向性】としては、就労についてのみ記されているので。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P25 各種メニューとは具体的にどのようなものを指すのか。 ・ P37 (4)、日中の過ごし方として、就労以外も考えられないか。 	⑥日中活動先の充実について	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ P28 (1) 障害のある子どもへの支援の充実 ～早期発見・早期療育体制のさらなる充実を図ります～ 【現状】『また、市内の幼稚園、保育施設等では、発達障害が疑われる子どもの保護者に対し、ていねいな対応により障害等への理解を促し』とあります。 発達障害に特定することではないし、疑われるという言葉の選択に疑問を感じます。 望まれる対応とは疑われるような子どもがいたらその保護者に対応するのではなく、日常的に子どもの育ちについての話をする環境を作り、気になっている保護者が相談しやすいようにしていくこと。 ・ 【今後の方向性】の中で、P29◆発達障害への対応の強化 で、『発達障害の傾向が見られる児童については、一部の保護者は障害の受容ができておらず、相談機関の利用に消極的になってしまう状況も見受けられます。』とありますが、傾向が見られるだけで、障害の受容ができるものなのでしょうか。しなければいけないのでしょうか。そういう状況の背景を読み取り、考察し、対策を検討し対応してください。 ・ 『障害を早期に発見し、早い段階で療育を受けることは、障害の軽減や社会適応能力の向上に有効であるとされています。』は、正しいことだと思いますが、はやく見つけて、受容して療育を受けてと急がせてしまわず、寄り添う支援と豊富なサービスメニューを提示することが、重要であり、相談してよかったにつながるのではないのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障害が「疑われる」という言葉を言い換えたほうがよい。 ・ 『保護者が障害を受容すること』以上に、寄り添う支援と豊富なサービスメニューを提示することが重要ではないか。 	(その他) 記載内容変更等の提案	※「疑われる」の表現を修正する。(可能性がある、等)
12	<ul style="list-style-type: none"> ・ P23 ヒアリング調査結果概要 (2) ③行政等に期待すること ○障害福祉課と他の福祉関係部署の連携のところに、『障害受容ができていない保護者への情報提供等では、…にあります。』とありますが、『障害福祉課』という敷居が高いところより、『子育て支援課』のほうが当たり前だし、障害児も子どもです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ (ヒアリングでの意見について)『障害福祉課』よりも『子育て支援課』のほうが敷居が低く、相談しやすいのではないか。 	(その他) 記載内容変更等の提案	<ul style="list-style-type: none"> ※「障害受容」の表現を削除 ※「障害福祉課」に限定せず表現を一部修正
13	<ul style="list-style-type: none"> ・ P31 【現状】の最後の段落 『啓発等を進め、障害に対する意識が寛容になることにより、』 『寛容』という言葉の選択は不適切だと思います。また、ここは現状の記述ではないのでしょうか。 ・ 【今後の方向性】 ◆グループホーム等の地域で生活するための各種サービスの充実 ・ ここには各種サービスの充実とありますが、グループホームしかサービスの記載がありません。グループホームだけでなく、日中活動の場も同様に必要です。施設入所者の地域生活への移行を考えると、生活介護の充実を図るという記述があってしかるべきです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『障害に対する意識が“寛容”』とする表現で問題ないか。 ・ 施設入所者の地域生活への移行のためには、グループホーム以外のサービス(生活介護等)の充実も重要ではないか。 	⑥日中活動先の充実について	<ul style="list-style-type: none"> ※表現を修正 (“寛容”になる→理解が進む) ※日中活動の場の充実についても追記
14	<ul style="list-style-type: none"> ・ P40 ◆利用者の高齢化に対応したサービス基盤の構築 2行目～ 『高齢化により重度化した障害者に対応することができる体制を備えた支援、本人・家族の意向を十分に反映したサービス提供を行うため、それに量的・質的に対応したサービス基盤の構築を進めます』 わかりにくいので、分けて書くとシンプルにわかりやすくしてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P40 の表現がわかりにくいので改めてほしい。 	(その他) 記載内容変更等の提案	※文章を一部整理、修正。

	ご意見	意見の要約	意見分類と対応	計画書修正対応
15	<ul style="list-style-type: none"> ・ P61 ②見込み量算出の背景【算出の考え方】 最後の段落 一步の取り組みをシフトしていくことが考えられるとあります。 新設されるサービスは、福祉就労から企業就労された場合であり、期限があるのではないのでしょうか。一步の取り組みの変化については、調査・検討を行ってください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就労定着支援サービスの新設に伴う一步の取り組みの変化について、調査・検討してほしい。 	(その他) 記載内容変更等の提案	※新規サービスに関する意見であり、今後、事業者の進出状況を把握した上で対応する。
16	<ul style="list-style-type: none"> ・ P70 ③見込み量確保のための方策 『国の示す基本方針を踏まえ、施設入所者の地域移行を促しているところですが、…』 具体的にどのようなことをしているのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉施設入所者の地域生活への移行について、具体的にどのようなことをしているのか。 	⑭福祉施設入所者の地域生活への移行について	
17	<ul style="list-style-type: none"> ・ P74 ③見込み量の確保のための方策 グループホーム等体制整備とするのではなく、生活介護も含めた記述にしたほうが、具体的で分かりやすいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループホーム等体制整備とするのではなく、生活介護も含めた記述にしたほうがよい。 	(その他) 記載内容変更等の提案	※生活介護等の日中活動系サービスについても追記
18	<ul style="list-style-type: none"> ・ P93 (7) 理解促進研修・啓発事業 最後の段落 ヘルプカード、サポートバンダナ・サポートキーホルダーの取り組みの説明が雑すぎるのと、P994 市民の理解と協同の推進にある説明とちょっと違う。きちんとしたほうが、理解推進にも役立つと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヘルプカード、サポートバンダナ・サポートキーホルダー等の説明を再検討してほしい。 	(その他) 記載内容変更等の提案	※説明を一部追記、修正。
19	<ul style="list-style-type: none"> ・ P99 2 PDCA サイクルによる進歩管理 モニタリングや評価方法の検討が必要ではないのでしょうか。公開された反映状況は、どこにありますか。第4期の計画に同じ書き方をされているので、これまでのものがあればと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画の進捗管理やモニタリングについて、どのように行っていくのか。 	⑫計画の進捗管理やモニタリングについて	
20	<ul style="list-style-type: none"> ・ まず、アンケート調査で、サービスを利用しているが児童では77%でしたがそれ以外は50%以下で、しかし利用してみたいとの要望は高いことから、サービスの周知がまだ不足していることと思います、それとともに成長や変化に応じた支援を知らせる必要があると感じました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート調査結果より、サービスの周知不足、周知の必要性を感じる。 	①周知・広報について	
21	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談支援の利用意向が強いということは、面倒を見ていることが圧倒的に多い親の思いのあらわれだと思います。相談する立場からはワンストップの相談窓口の必要を強く感じます。従来から「えぽっく」をワンストップ型と位置づけているようですが、人材を育てて一層の充実を望むところです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワンストップ相談窓口の必要を強く感じる。「えぽっく」等の人材育成等、一層の充実を望む。 	⑪ワンストップ型相談窓口の充実について	
22	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域生活への移行等、国や都の指針に基づき目標を決めているようですが、それぞれの見込み数から予算が算定されるのでしょうか。目標を達成すると福祉計画の達成なのかと思わされます。もちろん個々に対応した結果が人数となって出てくることは承知しますが、それぞれの人の意向や生活など生き方が見えてこないことに違和感を覚えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域生活への移行等について、目標とする人数の達成だけでなく、ひとりひとりの意向や生き方を意識した対応が必要ではないか。 	⑭福祉施設入所者の地域生活への移行について	
23	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画策定にあたりアンケート調査を行っているのはとてもよいと感じました。アンケートは毎年同じ内容で行われるのでしょうか。同じならそれはアンケート結果の変化を意識してのことなのでしょう。またアンケートでは拾えない生の声を聞くことも大事だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートは毎年同じ内容で行っているのか。アンケートでは拾えない生の声を聞くことも大事ではないか。 	⑯アンケート調査について	
24	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民への理解を深める取り組みについては、障害者週間のイベント等に限らず、学校教育の中で取り組んでほしいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民への理解を深める取り組みを学校教育の中で取り組んでほしい。 	②交流・インクルージョンについて	
25	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「こどもの発達センター・ひいらぎ」を児童発達支援センター化する案が出ているが、設立当初から一人一人に寄り添った療育をされている「ひいらぎ」をどのように変えていくのか解りづらく、人数だけを消化していくような巨大センター化に変えられるのではないかと不安に思います。「ひいらぎ」の基本方針を大切に守って頂きたいと願います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ひいらぎ」の児童発達支援センター化について、「ひいらぎ」の基本方針を守りながら検討を進めてほしい。 	⑧「ひいらぎ」の児童発達支援センター化について	

	ご意見	意見の要約	意見分類と対応	計画書修正対応
26	<ul style="list-style-type: none"> 泉小跡地に建設予定の障害者福祉施設に「地域生活支援拠点」の役割を含むような記述があるが、内容を具体的に示して頂きたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> 泉小学校跡地に建設予定の障害者福祉施設と、地域生活支援拠点整備の関係を示してほしい。 	⑤地域生活支援拠点整備について	
27	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援の見込み量が平成 30～32 年度で増えている一方で障害福祉サービス等の見込み量が平成 28 年度より減っているのは何故なのでしょう？今後、サービス等の利用者数は増加していくのではないですか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援の見込み量が、平成 30～32 年度で増加すると予想されているが、平成 28 年度よりは減っているのは何故か。 	⑬見込み量の算出について	
28	<ul style="list-style-type: none"> 就労継続支援(B 型)、生活介護の希望者が増加する中、事業を拡充するには場所の確保は必須条件です。民間の物件を借りている事業所にとっては家賃補助がない中、事業の拡充は厳しい状況にあります。市としてどのように支援を行っていくのか、より具体的に明記して頂きたいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 就労継続支援(B 型)、生活介護の利用希望者増加に対応すべく、事業所を支援することが必要だと考える。具体的な策を盛り込んでほしい。 	⑦就労支援について	
29	<ul style="list-style-type: none"> 障害児・者への切れ目のない支援を実現するためにもグループホーム等の充実を願っています。 	<ul style="list-style-type: none"> 障害児・者への切れ目のない支援の一環として、グループホーム等の充実を願う。 	④住まいの場の確保について	
30	<ul style="list-style-type: none"> 放課後等デイサービスの送迎加算がなくなるという話を聞き、送迎について今後どうなるのか心配しています。障害児の活動の場を維持するためにも送迎は不可欠であると考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後等デイサービスの送迎加算廃止等により、障害児の活動の場が縮小することが心配。 	⑨各種サービスの充実の要望	
31	<ul style="list-style-type: none"> 就労支援の充実を望みます。継続支援 A 型および移行支援事業所が不足している。就労におけるステップアップができるよう、事業所の増設や特例子会社の積極的な誘致を望みます。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続支援 A 型、就労移行支援事業所が不足しており、事業所の増設や特例子会社の積極的な誘致を望む。 	⑦就労支援について	
32	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の経済力や家族構成に左右されることなく、しょうがいを持った児童が就学できるよう十分な支援体制を確立してください。また、保護者がしょうがいを持った児童の介助のために就労機会が限られるようなことがないよう配慮願います。誰かが犠牲になるのでなく、一人一人の生活を社会が保障するような仕組みづくりを求めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が障害のある児童の介助のために就労機会が限られるようなことがないよう、配慮を願う。 	⑩保護者への支援	
33	<ul style="list-style-type: none"> 「障害福祉サービスを担う人材」の育成にはお金と時間がかかります。安定した雇用と待遇を保証し、長期的視野で熟練した人材を計画的に育てることが必須と考えます。これには、民間事業者任せでなく、行政が自ら取り組むことも含めて検討願います。 	<ul style="list-style-type: none"> 障害福祉サービスを担う人材育成は、民間事業者任せにせず、行政も積極的に取り組んでほしい。 	③人材育成について	
34	<ul style="list-style-type: none"> しょうがいを持った方の自立を促すために、まず住まいの確保が必要という考えに賛同します。この取り組みはぜひ進めてほしいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 障害者の自立を促すため、住まいの確保は重要であり、ぜひ推進してほしい。 	④住まいの場の確保について	
35	<ul style="list-style-type: none"> 市内に小中の特別支援学校がないために、意思とは関係なく市外の石神井特別支援学校に通っているのに、学校では地域との交流を自分（親子）で頑張れというような副籍をするのが良しとされ、疎外感がより強まり、市の情報も入ってこない。共生社会とは何なのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 市内に小中の特別支援学校がなく、市外の特別支援学校に通っているが、暮らしている地域との交流の機会が少なく、情報の入手が難しい。 	②交流・インクルージョンについて	
36	<ul style="list-style-type: none"> 移動支援は 30 分単位、通学でも利用できることとされているが、ヘルパー不足で短時間の依頼は受けしてもらえないし、利用者としても事業所が大変そうなのが分かるのでそもそも依頼ができない。短時間の依頼ができないということは 1 回の依頼が数時間単位になり、受給時間が不足して通学では利用できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 移動支援を通学等で利用したいが、ヘルパー不足等の問題があり利用できない状況にある。 	⑨各種サービスの充実の要望	

	ご意見	意見の要約	意見分類と対応	計画書修正対応
37	<ul style="list-style-type: none"> 短期入所は安心できるスタッフで、長時間預けられる桜町病院での継続的な利用を強く希望しているが、緊急性の高い依頼でないと受けられない事になり、将来の自立のために時々預けたいという理由では利用ができなくなった。別の事業所を1度だけ利用したが、受け入れが夜間のみ短時間では、日中一時や放課後等デイサービスなど、複数の事業を同時に申し込んでおかないといけなくなり、預ける方が労力が必要となるし、スタッフにも安心できなかった。泊まりで預けるには色々な心配がつきまとい、本当に安心できる事業所でないと利用できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 短期入所を利用したいが、事業所の受け入れ体制や対応可能な時間に限りがあるなど、安心して利用できる事業所が不足している。 	⑨各種サービスの充実の要望	
38	<ul style="list-style-type: none"> 以前に利用した放課後等デイサービスは、事業を拡大する事に利用者側は振り回され、変更次ぐ変更で利用していられなくなった。内容も療育を前面に打ち出し、他の事業所を名指しでレベルが低いと言っていたが、その事業所の内容が特別に療育的だったとは到底思えない。 現在学齢期の放課後等デイサービスは数に関しては充実していきいていると思われるが、高校を卒業すると突然余暇が激減し、体を動かす機会もなくなり、心身の健康面でも心配がある。他市で利用者の自費負担で成人向けの放課後等デイサービスのような事業があるが、ぜひ西東京市でも展開して欲しい。また、本人の収入がほとんど見込めないのに自費負担では利用できる回数も限られてしまうので、料金面でも学齢期のような事業になっていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校を卒業すると突然余暇が激減し、心身の健康面でも心配がある。他市で利用者の自費負担で成人向けの放課後等デイサービスのような事業があるが、ぜひ西東京市でも展開して欲しい。 	⑥日中活動先の充実について	
39	<ul style="list-style-type: none"> 今まで親が様々なサービスの手続きをして生活がうまくいくよう組み立ててきた者にとっては、少なくとも学齢期の計画を作るための相談支援は、間に事業所が入って手間が増えるだけでメリットが感じられない。 	<ul style="list-style-type: none"> 今まで親が様々なサービスの手続きをして生活がうまくいくよう組み立ててきた者にとっては、少なくとも学齢期の計画を作るための相談支援は、間に事業所が入って手間が増えるだけでメリットが感じられない。 	⑪ワンストップ型相談窓口の充実について	
40	<ul style="list-style-type: none"> 日中活動・グループホームが新規にできたとしても、すぐに定員が埋まっていて、高校の後に本当に行く場所があるのか常に心配がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 日中活動・グループホームが新規にできたとしても、すぐに定員が埋まっていて、高校の後に本当に行く場所があるのか常に心配がある。 	⑥日中活動先の充実について	
41	<ul style="list-style-type: none"> 将来、成年後見などはうまく機能して子供が安心して生活して行けるか強い不安がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来、成年後見などはうまく機能して子供が安心して生活して行けるか強い不安がある。 	⑮「親なき後」の支援について（制度面等）	
42	<ul style="list-style-type: none"> 全ての事業において、質・専門性の高い人材が不足していると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての事業において、質・専門性の高い人材が不足していると思う。 	③人材育成について	